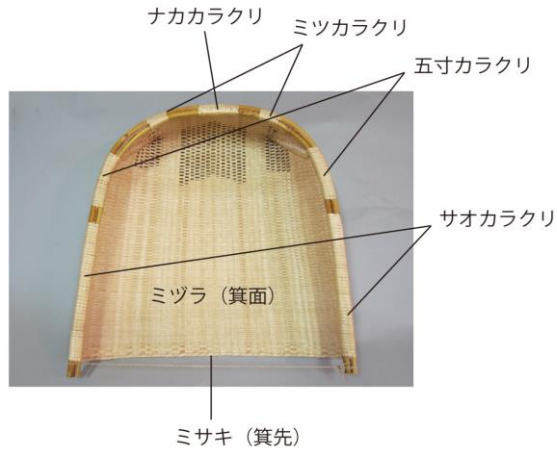





# 田口召平氏のオエダラ箕製作工程


## 箕名称




材料作り  
フジ





工程	作業内容	使う道具	写真
キフジを採る	コブシの花が咲く頃に山に採りに行く。この頃は実が厚い時期といわれる。フジはナラの木などの硬い木に巻けば硬くなり、コブシやホオの木などのやわらかい木に巻けば柔らかくなる。その場でキフジから芯(タネという)を抜き、100本で1束に束ねておく。	ヤマナタ	
ハギフジにする	2～3日乾燥させた後、ミドリ作業を行う。	細工ナタ、(ヨコヅチ)	
ミドリフジにする	ハギフジから表皮を剥ぐ。	細工ナタ	
ホシフジを作る	ミドリフジを2～3日天気の良い日を選んで乾燥させる。	干し台	
ツクリフジを作る	ホシフジを細く裂く。この時両端が薄くなるように裂く。	フジトオシギリ	

ネマガリダケ


工程	作業内容	使う道具	写真
タケを伐る	6月頃、山に採りに行く。地回り箕は尋五寸、大箕は尋一尺。どちらにも使える長さに切る(一尋五寸)。	ヤマナタ	
陰干し	採ったタケを1ヶ月ほど、茶色になるまで陰干しする。		
タケのし	ネマガリダケの曲がった部分を必要に応じて真っ直ぐにする。	イタヤの削りかす、火、水たまり	

工程	作業内容	使う道具	写真
節払い	タケの節を払っておく。	細工ナタ	







## イタヤ

工程	作業内容	使う道具	写真
木を伐る	11月頃、近くの山から採りに行く。イタヤがない時にはヤマウルシを使う。	ヤマノコ	
カケにする	山から伐ったイタヤを6~8等分する	重し(地面を平らにするためのものなら何でもよい)、キバタキダイ、ヤ(クサビ)、細工ナタ、ヨコヅチ	
サキギにする	カケをさらに厚さ0.1cmほどに裂く。	重し(地面を平らにするためのものなら何でもよい)、キバタキダイ、ヤ(クサビ)、細工ナタ、ヨコヅチ	
ツクリギを作る	サキギの面取りをする。	ケズリダイ、コガタナ、重し	
カラミギを作る	カラクリ部分になったリアクドをとめる時(アクドをとめるものはアクドトメギという)に使う。ツクリギより若干長く、質の良いイタヤで作る。根元の部分がハリ(針)になる。	ケズリダイ、コガタナ、重し	


## 箕作り作業



工程	作業内容	使う道具	写真
ハリフジ(ハネフジ)	ハネギに、箕の中心となるフジを弓形に張る。この形で箕の形が決まる。	ハネギ	

工程	作業内容	使う道具	写真
イタヤのツクリギを選ぶ	あらかじめツクリギを水に2～3分湿らせておき、1枚編める分のイタヤの束を半分に分ける。モトの部分(根元)が太く、ウラの部分(木の先)が細いため、モトとウラを交互に置いて幅をそろえる。その後イタヤの束を4つ位に分ける。良質のものはミヅラ(箕面)になり、質の悪いものはアクドの部分など、見えない場所にくるように並べる。	ハネギ、霧吹き	
ミザキギを3～4本選ぶ	箕の先にあたる部分で、フジを入れてもフジに引っ張られないように、太めで厚いものを3～4本ぐらい選ぶ。ミザキギの後は細いイタヤを使い、アクドに行くほど太いものにしていく(厚さはかわらない)。	ハネギ、霧吹き	
ハネる(イタヤを並べる)	ハネギが下、ハリフジが上になるように置き、端を足でしっかり押さえながらコハネギを置く。ハリフジとハネギの間にイタヤを差し込んで行く。フジとコハネギの上下にイタヤを入れていく。	ハネギ、コハネギ、霧吹き	
フジを編みこむ(ナカヅクリ) * 1	片側を箕作り板の下に敷き、その上に座ってフジを編んでいく。フジの端を右足でしっかり押さえ、ピンと張っておく。イタヤの横木を左側から1本置きに立たせ、その間にフジを入れる。イタヤをあげ、手を離れた時にイタヤが戻るようならば、ミヅラに隙間が空いて良くない。	ハネギ、コハネギ、霧吹き、箕作り板	
コハネギを外す * 2	フジを1本編む前にコハネギを1本外す。フジの端の部分は裏に織り込む。箕作り板でフジをしごきながら、真っ直ぐにして使う。	ハネギ、コハネギ、霧吹き、箕作り板	
カバを入れる * 3	箕の中心部分にカバを入れる(ナカカバ)。アクドの部分に入れるカバはスミカバという。	ハネギ、コハネギ、霧吹き、箕作り板	
反対側を編む	フジを10本ほど編んだ後、もう片方の面を編む。ハリフジを中心として、箕先から見て右側をデメ、左側をヒケメ(ヒカレメ)と言った。ヒケメの方が引っ張られて曲がりやすい。ハリフジがぴんと張るように、なおかつ箕面が凸凹にならないように、デメの方から編んでいく。しかしずっとデメを編んでいくと形がくずれてしまうので、デメの方にフジを5本編んだら返せ(反対側を編む)と言われた。手で確認しながら、フジの薄い部分を内側に編み込むようにする。	ハネギ、コハネギ、霧吹き、箕作り板	
	* 1～3くり返し	ハネギ、コハネギ、霧吹き、箕作り板	
ミミを編む * 4	キダチ(箕作りの際に、ミミ、ナカヅクリ、ツクリアゲなどの寸法を測るもの)で寸法を測りながら、ミミの部分を斜めに編んでいく。編み方はアジロ編み。ミミの部分の余分なイタヤを切り落とす。	ハネギ、霧吹き、箕作り板、細工ナタ、キダチ	

工程	作業内容	使う道具	写真
ワキヅクリを編む * 5	ナカヅクリのフジは形のそろった丈夫なものを使うが、ワキヅクリのフジは細かったりするため、場合によっては2本重ねて使う。	ハネギ、霧吹き、箕作り板、キダチ	
	* 4~5くり返し		
反対側を編む	両端の、最後に編むフジのことをトメフジという。最後はフジが抜けないう、横糸のイタヤを3~4ヶ所曲げておさえておく。	ハネギ、霧吹き、箕作り板、キダチ	
ケムシリ作業	裏に返して、余分なフジを切り落とし、ハネギを外す。箕先のハリフジは裏に折り返す。	霧吹き、細工ナタ、キリ	
箕を折る	完成の形に近づけるため、箕を三つ折りにする(真ん中とワキヅクリの部分折る)。三つ折りにするのは、ハリフジの盛り上がりなくすためと、アクドを縫いやすくするため。		
アクドを作る	ミミを織り込み、キリで穴をあけながらアクドのトメギ(イタヤのツクリギの中でも細くて硬いもの)を通し、縫うようにとめていく。とめ方は、「ヌイドメ」と「折り返しドメ」の2種類ある。上等の箕は、ミミの部分を数カ所とめる。	霧吹き、細工ナタ、キリ	
タケを曲げる	箕の縁につけるタケを手で曲げる。タケに触れると曲がる場所が分かるので、徐々に曲げていく。「タケを殺さないように」曲げることが大切。このタケを曲げる作業は特に技術を要す。曲げたタケの先はハリナワで固定しておく。	細工ナタ、キリ、ハリナワ	
箕を湿らせる。	「イケ」または「タナギ」と呼ばれる水たまりの中央に棒を立て、その棒に箕を伏せて置き、タケを曲げる間に箕を水に湿らせて置く。	水、棒	
タケをつける (カラクリ作業をタケツケ、もしくはカラミという)。	曲げたタケをトメフジの上に乗せる。トメフジにまっすぐタケをのせることを、「タケをのせた」と言う。タケをのせる時に、「タケをのせたか」と聞かれたという。カラクリ作業をする際、余分なイタヤはマキリで切るが、箕面とタケとをつけるために必要な部分にイタヤを残しておく。これを「チン」と言う。このチンを折り曲げてカラミギを巻きつけていく。オエダラ箕の場合、ウチダケ(内側のタケのこと)の根元が箕先から見て右になるように入れる。ソトダケ(外側のタケ)は根元の部分を箕先から見て左になるように入れる。	ツカミ、キリ	

工程	作業内容	使う道具	写真
ナカカラクリを巻く	キリで穴をあけながらカラミギを箕の中央に向かって巻いていく(右カラクリ)。右カラクリの見分け方は、ナカカラクリのチンが、箕先から見て左側についているもの。場合によってはチンをナカカラクリの両端につけていることもあり、そうすると素人ではなかなか見分けられない。左カラクリは箕先からアクドに向かって巻きつけていく。左カラクリの場合は、斜めに巻きつけたような形になる。 ミツカラクリの名称は、以前この場所は3回しか巻かなかったため。	ツカミ、キリ	
	中央付近まで巻いたら、箕の中心に残しておいたハリフジの先を切り取る(裏に折り込んで良い)。	マキリ、キリ	
キハシを切る	五寸カラクリを巻くために、カラクリの端になるチンを残して、イタヤのキハシ(ハシという)を切る。	マキリ、キリ	
五寸カラクリを巻く	箕先からみて左側の五寸カラクリから巻いていく。この時、1~2本はタケと箕面がしっかりつくように残しておき(チン)、カラクリに巻きこんで行く。膨らんだ部分(フクロ・穀類が溜まる大切な部分)の上を巻く。五寸カラクリを巻く時には「フクロを確認したか」と聞かれたという。	ツカミ、マキリ	
サオカラクリを巻く	箕先からみて左側のサオカラクリから巻いていく。やはりところどころイタヤを残しておき(チン)、カラクリに巻きこんでいく。	ツカミ、マキリ	
五寸カラクリを巻く	箕先からみて右側の五寸カラクリを巻く。この時は箕の中心から箕先へ向かって巻いていく(時計回り)	ツカミ、マキリ	
サオカラクリを巻く	箕先からみて右側のサオカラクリを巻く。この時は箕の中心から箕先へ向かって巻いていく(時計回り)	ツカミ、マキリ、 ペンチ(カラミギを引っ張る時に使う)	
タケハシを切る	余分なタケを箕先から3~4cm残して切る	ノコギリ	

ミザキトリ	箕先の縁をミザキトリギで巻いていく。裏に返して、イタヤの目にミザキトリギを2本はさみこみ、1本ずつ、フジ2本おきにミザキトリギを通していく。	キリ、コテ(細長くて薄いスプーンのような道具。箕を補修する際に使用する)。	
-------	--	---------------------------------------	---

工程	作業内容	使う道具	写真
ミザキトリ	1本目のミザキトリギを端まで巻き終わったら、2本目のミザキトリギを1本目を巻きつけた間に巻いていく(2本で交互に巻く)。	キリ	
ミザキトリのとめ方	最後は裏に返し、イタヤの目の間にはさみこむ。	キリ、マキリ	
できあがり			